



## 佐渡の教育について思う

佐渡総合教育センター  
所長 山川 辰也

### 1 問題点

子どものころ、「佐渡おけさ」の歌詞を聞き「佐渡へ佐渡へと草木もなびく…というのは嘘ではないか？むしろ、都会へ都会へと草木がなびくように…島民は島を離れていくではないか！」と思いました。

### 2 佐渡近代の先人たち

昔、佐渡の優れた先人たちは、身銭を切って研修し、最新の情報を取り入れ、佐渡島に地場産業を起こしました。それが加茂湖のカキ養殖や羽茂のおけさ柿です。このような起業家精神に満ちた先人のおかげで、今の佐渡があります。ある郷土史家は「私達佐渡島の後輩は、先人の残してくれた遺産をただ食い潰してきたに過ぎない。」と言います。

### 3 地域活性化は人づくりから

若者は「佐渡島へ帰ってもいいが就職先がない」と言いますが、「職場がなければ職場を作ってみせよう！」という気概にあふれた人づくりをしなければなりません。

そんな観点から「働く意義」「生き方指導」「郷土学習」等の充実を図らなければなりません。佐渡の子どもたちが、夢と希望に満ちあふれて、ある子は世界に羽ばたき、ある子は地域の活性化に役立つ人間に成長してほしいと願うのは、私だけではないと思います。

### 4 人づくりのための「学力」

世界に羽ばたき…地域の活性化に貢献できる人材育成には、「生きる力」そのものである「学力向上」が重要です。

是非次のことを大切にしてほしいです。

- ◎ 夢・目標を持ち続けられる子！
- ◎ 意欲的に学習を続けられる子！
- ◎ 郷土を誇り愛し続けられる子！

## 主体的に学ぶモデルこそ

下越教育事務所  
指導主事 加藤雄一郎

前期の計画訪問がまもなく終わります。訪問で感じた次の2点について、再度、点検をお願いします。

### 1 授業改善の視点は具体的か

具体的な視点をもって全校体制で取り組んでいる学校とまだ焦点化されず個々のテーマによる改善に任せている学校があります。どの学校も一人年1回以上の研究授業を校内研修に位置付け、授業力を高めようとしています。その成果が普段の授業に生かされ、継続されていることが重要です。研究授業だけではなく、日頃から授業実践を意識し、授業の手立ての見直しを図っている学校があります。正に教師自身が学び続け、主体的に研修を進めています。「主体的に学ぶ児童生徒」のモデルだと思いませんか。そして、学校全体の成果につなげていくためには、具体的な同一視点での改善が行われていることが必要です。また、本時1コマでの改善ではなく、単元構成を考えた中で手立てを講じ、その検証を積み重ねていってほしいと思います。

### 2 目指す姿は小中つながっているか

中学校区の取組について、それぞれの学校で目指す姿が9年間を見通した姿になっていない中学校区がありました。大切なのは、9年間を見通した低・中・高学年＋中学生の目指す姿が共有され、小から中へうまくつながっていることです。学習規律や学習習慣の確立、中学校区の課題解決に向けた協力体制づくりが急務です。

加えて、中学校区での小中連携した取組が確実に実行されているかお互いに点検をお願いします。



## 就学指導の機能拡充

教育指導主事 笹本 芳廣

就学指導に係る学施令の一部が改正され、9月には施行される運びです。主な改正点は、「障害の状態等を踏まえた総合的な観点から就学先を決定する仕組みにすること」「区域外就学等の規定整備」「保護者及び専門家からの意見聴取の機会拡大」です。

市教委では、保護者への積極的な情報提供と学校や園・関係課と連携したきめ細かな就学相談により、本人に必要な支援について学校と保護者、市教委等が合意形成を行うことを目標にして取り組んでいます。

市教委の取組と連動して、いくつかの中学校区では、「園・学校連携」の積極的な取組が行われています。真野校区では、特別支援教育コーディネーターが保・小・中連絡会を行い、気になる子の観察や情報共有をしています。佐和田校区では、校・園長連絡会で、支援の必要な子の情報交換やスタート・カリキュラムの協議を行っています。新たな試みとして、保育園保護者向けの学校見学日を設け、一年生の授業参観と就学相談を行った学校（羽茂小）もあります。これらの取組は、適正な就学指導を支える効果的な事例であると言えます。



就学指導で大切なことは、本人の教育的ニーズと必要な支援について、保護者と共通理解を深めることです。各学校には、これからも学校見学や相談等でお世話になりますが、よろしくお願ひします。

## 今年の研修から

教育指導主事 原 功治

### ◎生徒指導研修講座

5月21日(火) トキのむら元気館

新潟大学教育学部附属新潟中学校副校長の上野昌弘様を講師に「不登校の解消」を目的に、「心の健康チェック」のデータをどのように解釈し、児童生徒の心の安定を図っていったらよいか、具体的なデータを使い研修しました。グループ別に気になる生徒をピックアップし、どのデータから気になるのか紹介しあいました。「心の健康チェック」を実施している学校では、「今後その蓄積されたデータから変化を読み取り、より適切に対応できる」と好評でした。



### ◎授業力向上研修講座「社会科」

7月5日(金) アミューズメント佐渡

新発田市立御免町小学校教頭の山崎浩志様を講師として、「社会科の授業づくりと単元構成の工夫」について講義と演習を行いました。小学校3・4年生の学習指導要領（社会と理科）の目標と内容を抜粋した資料から、「教科の特性は？」や「どのような授業をイメージするか？」参加者の意見を交えながら授業に対する考え方を共有していきました。さらに、小学校3年生社会科の単元の16時間分の指導計画を参考に、授業者が考える授業に対する工夫や指導のポイントをグループで考え、全体で協議していきました。参加者は校種にかかわらず「社会科の授業づくり」のポイントを学びました。



## 理科指導の素晴らしさ感じ取れる教師に

教育指導主事 矢田 親成

学校数の減少もあると思いますが、ここ数年、理科センターの小学校教員対象の研修会参加者数は減少傾向にあります。理科は事前の教材研究や予備実験が欠かせません。また、天候に左右され、時間変更を余儀なくされることも多々あります。これらが最近話題になる「教師の理科離れ」の原因の一つかも知れません。昨年度の全国学力調査質問紙で「理科は好き」と答えた佐渡の小学生は82%（どちらかと言えば好きも含む）、「観察・実験は好き」については89%（同）でした。

佐渡の子どもは理科の授業を楽しみにしています。その思いに応えるためにも、教師自身が積極的に研修会に参加し、自然界の仕組み等について理解を深め、理科指導の素晴らしさを感じ取ってほしいです。そして、一人一人に自然を愛する心情を育ててほしいと願っています。